

1月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■ 14時30分から15時30分

■ 展示観覧料が必要です。

※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」など、話題や内容は実に多彩。どンドン質問をおよせください。展示場でお待ちしております。

6日
(11月11日)

話者：庄司博史（国立民族学博物館 教授）
話題：移民のささえるヨーロッパ
会場：ヨーロッパ展示場

13日
(11月18日)

話者：新免光比呂（国立民族学博物館 准教授）
話題：ヨーロッパのキリスト教
会場：ヨーロッパ展示場

20日
(11月25日)

話者：松本雄一（国立民族学博物館 機関研究員）
話題：アンデスの神殿とその魅力
会場：東南アジア休憩所

27日
(12月2日)

話者：小川さやか（国立民族学博物館 助教）
話題：路上空間は誰のもの？
——路上商人による暴動を事例に
会場：東南アジア休憩所

1年間みんなくは何度でも入館できる「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいあります。

- 特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引
 - ◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引
 - ◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。
- 詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893 / 平日9:00 ~ 17:00)

編集後記

本号は1月号恒例の干支特集としてヘビをとりあげた。昨年の龍はおどおどろしい空想の動物、ヘビは現実の身近な生きものという違いはあるが、両者にまつわる信仰が、水や天候、大地を支配する神聖を認める点でかなり重なり合っていることを改めて感じた。

一方、今回の特集ではあまり触れられていないが、ヘビにはもう一つの側面がある。それは忌み嫌われ、あまり歓迎されない邪悪なイメージで、うじ虫を連想させる、地を這いまわる姿からきているようだ。日本語のヘビやハブの語源が「這う」にあるともいわれるが、英語のスネークやラテン系諸語のセルペントなども「這う」という語に発しており、うじ虫という語と同源の場合もすくなくない。野道で遭遇すると、気持ち悪さと恐ろしさからヘビだけは追いかけてまわしてひどい目に合わせていた残酷な少年時代をふり返り、ヘビには悪いことをしたと思うが、変な気分になったことは忘れない。

こんな相反するイメージをあわせもつヘビではあるが、今年はおどろきの側面をみせてくれるのであろうか。

(庄司博史)

- 表紙：舞踏用仮面「ナーガ(コブラ) 魔神」
標本番号：H0085979 地域：スリランカ

次号の予告

特集 はじめてに光ありき(仮)

月刊みんなく 2013年1月号

第37巻第1号通巻第424号 2013年1月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 八杉桂穂
編集委員 庄司博史(編集長) 小川さやか 樫永真佐夫
久保正敏 菅瀬晶子 山中由里子
編集アドバイザー 山内直樹
デザイン 宮谷一孝
制作・協力 財団法人千里文化財団
印刷 日本写真印刷株式会社

- *本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係にお願いします。
- *本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分(茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。)
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてきます。

みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

